

# コロニー中央病院だより

## 中央病院の新病院建設における現況

### 利便性に最大限配慮して実施設計段階に

病院長 飯尾賢治



図の点線は、現時点での新病院建設予定位置の概要。建設後は、現在の病院・研究所・管理棟は取り壊し駐車場になる予定

平成 23 年 11 月に策定された愛知県地域医療再生計画の「障害児医療対策」において、「県内の発達障害医療の拠点施設として、また、小児医療及び周産期医療の後方支援を担う施設として、コロニーの整備を行う。」と定められました。これに基づき、現在「愛知県療育総合センター」（仮称）の設計が進行中ですが、基本設計から実施設計への段階に来ています。

建設工事は、一期と二期とに分かれることになっています。現在稼働している中央病院及びこぼと学園を利用されている方の診療に対して、できる限り影響を及ぼさないように、また、将来利用される方の利便性に配慮したためです。

建設工事に繋がる実施設計は、昨年度から継続して進めています。最終的な形は、中央病院とこぼと学園からなる「医療支援部門」、はるひ台学

園やあいち発達障害者支援センターなどからなる「地域療育部門」、「研究部門」がそれぞれの機能を活かして連携しやすいように、関係するセクションを近い位置に配置するよう心がけています。例えば、リハビリセンターは、外来患者からも重心病棟の利用者からも容易にアクセスできるように配置するほか、児童精神科もあいち小児センターから統合される発達障害（心療科）の病棟と外来に隣接させるなど、効率的で、かつ最大の効果を発揮する施設を目指しています。また、現状よりもはるかに広い外来診察室や病室、採光などのアメニティーにも十分配慮しながら、患者さんにとって快適な病院に生まれ変わるよう、スタッフの知恵を結集して、建設に向けた設計作業を進めています。

#### ■ 中央病院の理念と基本方針

私たちは成長や発達に支援を必要とする方々に、より良い医療を提供するように努めます。

- 1 胎児期から成人までを対象とし、患者さんの目線に立ったやさしく安心できる医療を行います。
- 2 心とからだの成長・発達に影響する子どもの疾患を総合的に診断し良質な医療を専門的に提供します。
- 3 患者さんが自立した生活ができるよう、在宅支援や地域との医療連携を推進します。
- 4 成長・発達に影響する病気の原因追究および治療法の開発を発達障害研究所やこぼと学園と協力して進めます。

# 新任医師紹介 (平成 25 年 4 月より)

## こぼと学園長・小児神経科 麻生幸三郎 先生

14 年間勤めた名古屋市西区にある障害児者施設、愛知県青い鳥医療福祉センターから 4 月にこぼと学園に赴任した小児科医の麻生です。

生まれは佐賀ですが、小学校入学時は名古屋におり、その後、アメリカ留学時の 2 年間を除き、50 年以上名古屋周辺におりましたので、名古屋人といっていきたいと思います。

専門は小児神経学、小児てんかん学です。しかし、前任の愛知県青い鳥医療福祉センターでは障害者を「支える医療」を学ばせていただきました。とくに、摂食嚥下評価については耳鼻科の先生、言語聴覚士、作業療法士、歯科衛生士の人たちに教えてもらいながら学ばせていただき、50 の手習いですが、嚥下造影を 300 例以上行いました。いい経験、勉強をさせてもいただいたと感謝しています。

コロニーには小児外科の先生方を中心にいろいろお世話になってきました。救急車に乗って重症化した患者さんを担ぎこんだことも何度もあります。

▶ **特技・趣味**： のめりこんでいるほどの趣味はなく、強いて言えば、読書と音楽鑑賞ぐらいでしょうか。転任をきっかけに数百冊の本と数百枚の CD を電子化しました。それらを iPod やウォークマンなどで持ち歩き、視聴しています。よろしく、お願いします。

▶ **コロニーの印象**： コロニーは年月を経て建物は古ぼけていますが、周りの自然は素晴らしいですね。こぼと学園中庭の桜の素晴らしさにはびっくりしました。紅葉の季節が楽しみです。そのころには周りに迷惑をかけない程度には入院患者さんの把握ができていますかと思っています。



## 小児神経科 大萱俊介 先生

みなさん初めまして、小児神経科に 4 月から赴任となった大萱(おおがや)です。出身は愛知県豊田市です。大学は東京医科歯科大学へ行き、故郷がさびしくなっって初期研修から豊田市にある豊田厚生病院へ戻ってきました。前任は名古屋大学病院小児科に半年赴任しておりました。

▶ **特技・趣味**： 特技と呼べる大したものはありませんが、大学時代にオーケストラサークルに所属してビオラ(弦楽器でバイオリンのちょっと大きいやつです)を弾いていました。趣味は家族を連れて(温泉)旅行です。温泉というよりそこでしばらく日本酒を飲むことです。つらいことがあるとすぐに愛知県を脱出したくなります…。

▶ **コロニーの印象**： やはり古くて夜はちょっと怖そうな感じですが、緑が多くて心は癒されます。働く環境としてもほどよく顔が見通せる程度の距離感なので、早く仕事になじんで顔を覚えてもらい力になれるように頑張りたいと思います。名前を読むのがとても大変かと思いますが、間違いを恐れずに呼んでみてくださいね！！(間違えても全然構いません)



中央病院の5病棟にどんな患者さんが、どのような治療を受けながら入院生活を送っているか、各病棟の看護師がリレーして紹介しています。

## <個室を増設、行動障害へ対応>

こんにちは。西4階 児童精神科病棟です。

西4病棟は、学童から成人の重度、又は最重度の精神遅滞がある発達障害・自閉症、また、統合失調症など精神疾患のある方が入院されている閉鎖病棟です。その他に、プラダーウィリー症候群をはじめ、高度肥満症や糖尿病のある方が、ダイエット目的で入院されます。

入院患者さんの多くは、自傷・他害・激しいこだわり・物壊し・多動・著しい騒がしさなどの行動障害があり、パニックや粗暴さで処遇困難な状態になる恐れが常にあります。そのため、平成24年3月に個室を4部屋増やし、さらに昨年度、包括的暴力防止プログラム(CVPPP)の研修を受講し、暴力やパニックに至らないような取り組みを実施しています。その効果もあって、昨年10月からは身体拘束者0人とすることができました。

また、散歩や折り紙、ボーリングや魚釣りなどのゲーム、作業療法室でのトランポリンやブランコなど、OTと協働し「入院生活にメリハリをつける」「患者個々の快刺激を増やし落ち着いて過ごす」を目標に日中活動に取り組んでいます。今年度からは、防災訓練を日中活動に取り入れ、災害への備えもしていきたいと考えています。

今後も、暴力によるけがや器物破損を無くしていくことを目指し、行動制限最少化のために努力していきたいと思っています。



## 委員会の お仕事

### リスクマネジメント部会

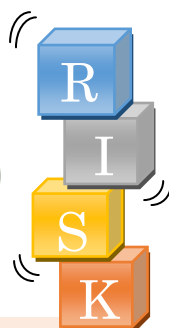
### インシデントから対策を検討

毎年、新聞に医療事故報道がされる時代になってきています。

病院では医療安全対策は必須のものとなり、中央病院でも医療事故防止対策委員会が設置され、部会としてリスクマネジメント部会が設けられています。

部会の目的は、各職場で医療安全実施策を実効あるものにし、安全で確実な医療を推進することです。

委員長はリスク専任看護副部長、副委員長は副院長



長、医局から各科の医師、臨床検査室、放射線技術室、薬剤部、リハビリテーション室、給食課、看護部からは師長と看護部安全委員会委員長がメンバーとして参加しています。

実際の活動は、毎月会議を開催し、前月に職員から報告のあったインシデントレポートの集計結果や内容を確認します。その中から事例を選び対策を検討し、その対策を各職場に持ち帰り職場で実行できるようにしています。

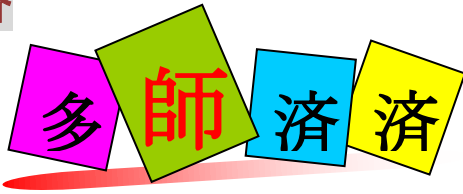
インシデントレポート報告は年間約 800 件の報告がされます。

看護部からの報告が全体の 85% くらいを占めますが、医師を含め、他の職種からも年々報告されるようになってきています。

集計から各職種での傾向など分析を行い、より職場での安全が守れるように務めています。

(鈴木恵子)

## スタッフ紹介



### 言語聴覚士 笠原 伸洋

言語聴覚士としては10年目、中央病院で働き始めて9年目になります。言語聴覚士は、言葉や聞こえの障害、発音の障害、食べる機能の障害などコミュニケーションや食べることの障害を持つ方へ支援を行うリハビリをします。リハビリテーション領域の資格としては、理学療法士や作業療法士に比べ、まだまだ歴史の浅い職種です。

中央病院では、主に就学前のお子さんを対象にコミュニケーションや言葉、発音に障害がある患者さんの言語相談や訓練を実施しています。また、医師や作業療法士と摂食嚥下障害の評価も行っています。入院患者さんを対象に病棟保育士と療育活動も行っています。

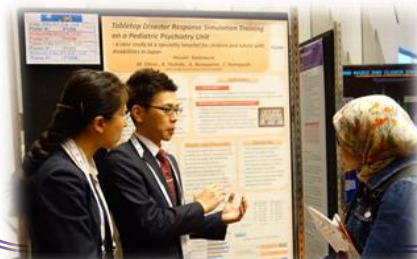
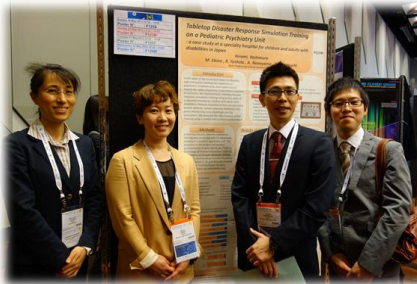
言語相談には、「言葉がまだ出ない」「コミュニケーションが取りにくい」「発音が不明瞭」など様々な理由で来られます。言葉が出る前のお子さんには、遊びを通してコミュニケーションの基礎作りや認知発達、概念形成の訓練を行います。また、親御さんには生活や遊びの中で発達（認知、言語、コミュニケーション、社会性など）を促す接し方の助言を行っています。発音が不明瞭なお子さんに対しては、構音訓練や口腔機能訓練を行っています。就学を控えているお子さんには、学習態度の形成にも重点を置いて訓練を実施しています。

訓練室だけで効果がでるものではなく、日々の生活や遊びが言葉を育みます。言語やコミュニケーションについて相談したいことがあれば、言語相談に来てください。

8

## ～問診票～

- 出身地はどこですか？  
大阪です。
- コロニー在籍何年ですか？  
9年目になります。
- 趣味は？  
映画鑑賞です
- 血液型は？  
O型です
- 猫と犬どっちが好きですか？  
犬の方が好きです。
- マイブームは？  
泊まりや日帰りでキャンプに行くことです。
- 最近、気になるニュースは？  
消費税増税です。
- コロニーで好きな所は？  
自然が多いところです。



「災害時対応の図上訓練」をテーマに国際看護協会大会(メルボルン)で発表  
西4病棟 吉村弘美

地震等の災害時に迅速な災害時対応を行うには、職員間の共通した認識と連携ができる訓練が必要であると考えます。そこで、看護研究研修で「児童精神科における状況予測型災害図上訓練の有効性」をテーマに防災訓練を行いました。その結果、災害時の患者さんへの対応や職員の役割行動が明確となり、図上訓練は災害時対応のイメージ化と、患者さん対応への不安軽減に有効であることが示唆されました。

院内で発表したこの研究は、昨年佐賀で行われた日本看護学会で発表し、優秀賞を頂きました。そして、国際看護学会への推薦を受け、今年5月に、オーストラリアのメルボルンで開催された国際看護師協会 (ICN) 4年毎大会でポスター発表しました。

写真は発表の様子です。